廃棄物処理対策研究事業 中間評価 評価結果

研究課題名	代表研究者	総合評価	学術的 必要性	社会的 必要性	目標の 達成度	計画の 妥当性	継続 能力	補助の 必要性
ゴム・プラスチック材料廃棄物のリサイクル過程における化学構造変化の精密解析と実用プロセスの構築	名古屋大学 大谷 肇	48.0	53.2	43.4	50.7	51.6	52.0	50.3
<p>(研究概要) 研究概要及びこれまでに得られた研究成果を400字以内で記入</p> <p>ゴム・プラスチック材料廃棄物のマテリアルリサイクル工程で生成するミクロ架橋構造を、試料の特異な反応分解と分解生成物の詳細な分析により、分子レベルで解析する手法を開発することを第1の目的としている。さらに、この手法により得られる結果を基に、実用的なリサイクルプロセスを構築することを目指す。そこでまず、試料の超臨界メタノール分解とマトリックス支援レーザーイオン化質量分析法を組み合わせることにより、不溶性高分子中の架橋ネットワーク構造を詳細に解明することができる、新しい方法を開発した。また、ポリエチレンテレフタレートのリサイクル工程を再現して混練処理した試料中の架橋ネットワーク構造について、反応熱分解ガスクロマトグラフィーによる解析を行った。その結果、混練処理により極わずかながら、架橋構造の前駆体となる異常構造が形成されることを実証した。</p>								
<p>(評価コメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リサイクルの推進に必要な研究である。 ● 架橋防止につながる研究を推進していただきたい。 ● 目的と成果が今1つ明確でない。 								

注1) 総合評価等の数値は偏差値である。

注2) 評価コメントについては、研究課題代表者が、総合評価を評価者全体の評価結果として捉えた上で、すべての評価コメントの反映を目指すのではなく、各コメントの中で今後活かすべき重要な指摘や示唆が何かを吟味・判断の上、今後の研究計画の見直し等に活用することを期待する。